○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

情報交換「市」

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の
“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」
“伝言板”

家庭の中にも人権あり

野木町立南赤塚小学校　教諭　山﨑　賢二

先日、あるＣＭを見た。夫は、「おでんが食べたい。」と言うが、夫人は、「てんぷらが食べたい。」と言う。おでんは譲れないはずだが、結局、天ぷらを食べていた。こんな会話が自分の生活の中にもある。

食事は、妻が作ることが多い。ある日、妻が「今日、何が食べたい？」と尋ねてきたので、「カレーライスが食べたい。」と言った。すると、妻は、「ハヤシライスが食べたい。」と言ってきた。その後の会話は、テレビのＣＭのように、結局ハヤシライスになった。ハヤシライスはおいしかった。そして、妻に感謝した。

しかし、これからこういうことが起きた場合、どうすべきか考え合った。そして、食事は妻に任せるだけでなく、自分も作ることである。自己主張するばかりではいけない。これからの共同生活に向けて、互いに励むことになった。料理は苦手だが、少しずつがんばっていきたい。

踏み出す勇気をもって

小山市立大谷東小学校　教諭　須藤　千栄

今、ようやく、ご近所とのつながりの大切さを感じています。今のところに住んで早８年。地区の行事にも最低限の参加でした。でも意識が変わったのは、社会教育主事講習に参加してからです。講習では、地域のつながりの大切さを学びました。その時にもう一度自分の住んでいる地区を振り返り、人と人とをつなぐ行事が多いことに気づきました。今までほとんど人任せだった私ですが、思い切って参加しました。戸惑うことばかりでしたがご近所の方に助けられ、教えられ、気づくと楽しく参加できました。また、役員を引き受けたことで、一緒にパトロールをしながら地域の話を聞いたりいろいろな方の考え方に触れたりすることができました。今までの自分の世界の狭さに気づきいろいろな考え方に触れることの大切さに気づきました。これからも一歩を踏み出す勇気をもって地域に参加し「立派な地域のおばちゃん」になりたいと思います。

とちぎ未来アシストネットでつなぐ地域との絆

栃木市立都賀中学校　教諭　森田　聡

社会教育主事有資格者となって講習で学んだことを活かすために、地域とつながりを持ちたいと思っていました。しかし、都賀中に異動したばかりで、地域の方とどのように仲良くなっていくかそのきっかけをつかめずにいた私に、鈴木正俊校長先生が「とちぎ未来アシストネットの担当者になれ。有資格者がこういう仕事をやらなくてはいけない」と言ってくださいました。とちぎ未来アシストネットの学校ボランティアコーディネータを担当し急に公民館の担当の方、地域コーディネータの方、地域のボランティアの方、たくさんの方とお知り合いになることができました。学校ボランティアも始まったばかりで数もまだまだ少ない状況です。都賀地区の地域の力をお借りして生徒を大きく育てるために、これからももっとたくさんの方と知り合い、絆を結んでいけたらと思っています。

情報交換「市」もすっかり、「ネットワーク」の定番となりました。社会教育主事講習で一緒だったあの人が、一緒に勤務したあの人等が、「現在」の様子を皆さんに語ります。ぜひ、これからのふれあい学習の一助に、そして、紙上同窓会的意味合いもあります。今回の情報交換「市」も、ぜひ、お楽しみください。

情報交換「市」

○「今、こんなことしてます」
ご無沙汰している方々へ“近況報告”
○「こんなこと、感じてます。」
“社会教育主事有資格者として”

○会員どうしの「絆」を結ぶ。紙面上の
“情報交換「市」”
○「伝えたい！」「お願い。教えて！」
“伝言板”

間々田地区町民体育祭に関わって

県立小山高等学校　教諭　茂木　幹雄

２年前の暑い夏、社会教育主事の講習を受け最も印象に残っているのが『人が集まることだけでも社会教育になる』という内容でした。その年たまたま地域の体育副委員をやっており、体育祭の運営に関わり競技にも参加しました。以前の自分であれば、地域の体育祭などは『めんどくさいもの』であったのですが講習のおかげで見方が変わり、とても積極的に楽しく取り組めました。昨年も体育委員となり運営をお手伝いし、地域の知り合いを競技に誘いました。今年は委員にはなっていませんが、子供と一緒に競技に参加しようと思っています。

地域の体育祭で多くの人たちと関わりました。何か特別なことをしたわけではないですが、とても楽しく活動しています。これが社会教育なんだなと実感できた気がします。今後も周りの人を体育祭に誘い、巻き込もうと思っています。ぜひ私が感じた楽しさを他の人にも体験してほしいです。

「絆」

下野市教育委員会事務局　学校教育課
指導主事　塩沢　建樹

この夏、下野市の子ども達が書いた作文を沢山読む機会がありました。テーマは家族の絆でした。祖父母、父母、兄弟への温かい思いやりの気持ちや家庭で実践していることが書かれていました。どの作品も気持ちが素直に表れた文章でした。その中で印象的だったのは、父親を小さい頃に亡くしたお子さんの作文です。それは父親のたくさんの友達が色々な所へ連れて行ってくれたり遊んでくれたりするので寂しくないというものでした。きっと生前、父親が周りの人への気遣いや思いやりをもった行為がこういう絆を作り上げているのだろうと温かいものを感じました。

思いやりの心を育てるためには思いやりをたくさん受けることが大切だと思います。このお子さんもきっと思いやりの心に溢れた人になる事でしょう。思いやりの心が人の絆を広げ、深めていくのだと改めて感じることができた夏でした。

私の目指す社会教育主事

下野市教育委員会事務局　生涯学習課
社会教育主事　下谷　淳

先日、ある研修会でワールドカフェというワークショップのファシリテーターを務めました。

今回は「子どもたちの５年後の未来のために地域ではどのような取り組みが必要か？」ということを話し合いました。

はじめはぎこちなかった参加者の会話。進行するうちに笑い声が出るほど弾みました。目を輝かせながら熱く語り合う姿は、まるで旧知の仲のようでした。

今回のワークショップでは「大人だって未来のことを語るのが大好きなのだ」ということを学ぶことができました。アンケートの満足度平均が５点満点中 4.2 点だったこともそれを裏付けています。このような機会を増やせば、まちづくりに関心を寄せる市民がもっと増えるかもしれない。そんな可能性に気づくことができました。

参加者がワクワクできる楽しいワークショップを提供して、まちづくりに参加する市民をもっと増やしていける。そんな社会教育主事になりたいと思います。